

前 不 動 心

令和 6 年 3 月
第 7 4 号
発行 普 照 院

大黒（住職の家内）の実兄である普照院のお隣にある菓仙寺住職が、この原稿を書いている 2 月後半に、インド研修（10 日間）に参加しておられました。私も 12 年ほど前に同じ研修に参加したご縁があり、インドにいる兄からの LINE を毎日楽しみにしていました。ところで、仏教と言えばインド。インドと言えばお釈迦様。ではお釈迦様とはどんな人？ 仏様？なののでしょうか。今回は、あらためてそのお釈迦様のご生涯を、仏教四大聖地と呼ばれる場所の紹介と共に、この不動心で簡単にですがまとめてみたいと思います。

【お釈迦様の誕生】ルンビニ（ネパール）

お釈迦様は、今から約 2500 年前に現在のネパールでお生まれになりました。その生誕の日は 4 月 8 日とされ、現在では「花まつり」として多くの仏教寺院で法要をお勤めします。また生誕してすぐに、右手で天を左手で地を指し、てんじょうてんげゆいがどくそん天上天下唯我独尊（生きとし生けるもの全ての命は等しく尊い）と語られました。右画像の右におられる女性は、お釈迦様の母親である摩耶夫人で、そのそばには無憂樹（むゆうじゆ仏教三大聖樹①）があったそうです。またお釈迦様の父親は釈迦族の国王でしたので、お釈迦様は王族の跡取りとしてお生まれになったのでした。



【お釈迦様は修行に入り、ついに悟りを開かれます】ブッダガヤ

王子として教育を受けたお釈迦様ですが、人々の様々な苦しみを感じ（しょうろうびょうし生老病死）、王族という立場を捨て出家されます（29 歳）。そしてその出家は、生死をかけた過酷な修行（くぎょう苦行）でした。しかしその修行方法では悟ることは不可能であると気づいたお釈迦様は苦行を捨て菩提樹（ぼだいじゆ仏教三大聖樹②）のそばで瞑想を始め、とうとう悟りを開かれます（35 歳）。

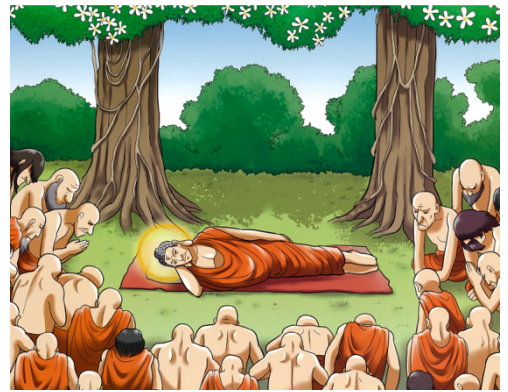
【悟りを得たお釈迦様ですが、それを人々に話すことを躊躇います】サールナート

悟りを開かれたお釈迦様でしたが、悟った内容があまりにも難しいため、はじめは人々に話すことを 49 日間躊躇いました。しかし梵天に勧められて、説法することを決意します。そしてその相手として、まずはかつて苦行をともにした五人の僧を選び、初めての説法（しょてんぼうりん初転法輪）をしました。その後、さらに教えを広めるために、現在のインド北東部を中心に布教の旅（ゆぎょう遊行）へと出発されます。



【お釈迦様は涅槃に入られます】クシナガラ

45年間にも渡って弟子達と共に遊行を続けられたお釈迦様（80歳）は、とうとう最期の時を迎えられます。沙羅双樹（仏教三大聖樹③）の樹々のもとで枕を北に、そして顔を西に向けた（頭北面西）お姿で横になられたお釈迦様は、そのまわりに集まった弟子達に、『もろもろの事象は過ぎ去るものである。怠ることなく修行を完成しなさい。』とお伝えになり、涅槃に入られました（2月15日）。



画像：手塚治虫「ブッダ」より

【令和6年のお寺行事（予定）】

月	日	行事	内容
3月	20日	春彼岸墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	23日	春彼岸塔婆供養会	午後2時より、本堂にて。
4月	8日	釈迦生誕祭(花祭り)	花見堂を設置しております。随時お参り下さい。
8月	7日	盆墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	16日	盆施餓鬼 ・初盆精霊供養法要	午後2時より、本堂にて。 併せて本年の初盆精霊をお供養します。
9月	22日	秋彼岸墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	25日	秋彼岸塔婆供養会	午後2時より、本堂にて。
12月	8日	成道会・永代塔納骨供養	舞子墓園 当寺院永代供養塔前にて。
	27日	歳末墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。

*変更等がある場合は、後日ご連絡させていただきますので、ご容赦下さいませ。

〔編集後記〕今年元旦からいきなり大変な惨事が日本国内で続き、コロナ禍が過ぎ去った最初のお正月でしたが、再び重苦しい空気に包まれました。その後は幾分、落ち着きを取り戻したように感じますが、皆さんは体調など崩されたりしていませんか。私たち寺族は息子がインフルエンザにかかり、年末年始は大変でした。その後はなんとか大丈夫ですが、まだしばらくは世間でもインフルエンザなどの流行はおさまらないようですので、皆様もご自愛いただければと思います。それと、当寺院舞子墓園の第一期補修工事が、無事に春彼岸までに完成しました。今後も何度かに分けて、順番に各所工事をしていく予定になっています。お参りや工事近隣区画の皆様には、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒ご容赦の程宜しくお願い致します。 合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話 078-671-1787 ファックス 078-330-1187

ホームページ <http://fusyoin.com/>



普照院

検索



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。
とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげてください。